

# 萩原秀三郎氏撮影「青森ねぶた祭」写真紹介

An Introduction to the Photographs of “Aomori Nebuta Festival” by HAGIWARA Hidesaburō  
ANAMI Toru

## 阿南 透

### はじめに

戦後の青森ねぶた祭は、ねぶたという大型燈籠が道路をパレードする行事である。ねぶたは毎年新たに作られ、祭りが終わると破棄される1年限りの作品である。このため、あるねぶたが作られた年の特定は、資料と照合すれば可能である。

萩原秀三郎氏から歴博に寄贈された祭礼写真には、青森ねぶた祭を撮影したものが125枚ある。本稿はこれらの撮影年を特定し、代表的な写真を紹介するとともに、撮影対象の傾向を考察するものである。

### 1. 撮影年

写真の内訳は白黒87枚、カラースライド38枚である。これらについて、写真に写っているねぶたから年代を判定した。運行団体、ねぶたの題材、作者などとともに一覧表にまとめたものが表1である。

撮影年ごとの枚数は表2のとおりである。1963年、65年、68年、76年の4年分の写真が存在した。萩原氏は少なくとも4回、青森ねぶた祭を訪れていることになる。

白黒写真は1963年と1965年のものが存在する。不明の白黒写真が9枚あるが、太鼓を叩く囃子方、はねと、見物人など、人物を写した写真がほとんどである。おそらく1963年のものではないだろうか。カラー写真は1968年と1976年の写真が大半であるが、1枚だけ1963年のカラー写真がある。

表2 萩原秀三郎ねぶた写真  
撮影年

年	白黒	カラー
1963	56	1
1965	23	0
1968	0	13
1976	0	24
不明	9	0

### 2. 被写体の選択

#### 2-1. 1963年の写真

次に、撮影年ごとの特徴を見てみよう。

1963年の青森ねぶた祭では、14台の大型ねぶたが運行した(表3)。そのうち萩原氏が撮影したのは5台だけである。このことから、萩原氏は、全部のねぶたを網羅的に撮影するのではな

表1 萩原秀三郎撮影 ねぶた写真一覧

番号	種別	掲載番号	年	月日	時刻	団体	ねぶた題名	ねぶた作者	写真の特徴	場所
1	カラー		1963	8月5日か6日		青森信用金庫	茨木童子と渡辺源氏綱	北川啓三		
2	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	停止中のねぶた正面	
3	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	ねぶたの前のハネトを撮影するが陰になり判別できない	
4	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	縦構図で渡辺綱を撮影	
5	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	停止中のねぶた正面	
6	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	停止中のねぶた正面やや右	
7	白黒	写真1	1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	停止中のねぶたを正面やや右から撮影。休憩中の曳き手も写る	後にキャバレースカーレットのネオン
8	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	停止中のねぶた正面やや右	後にキャバレースカーレットのネオン
9	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	停止中のねぶた正面やや右	後にキャバレータイガーのネオン
10	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	停止中のねぶた正面やや右	後にキャバレースカーレットのネオン
11	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	停止中のねぶた正面やや右	後にキャバレータイガーのネオン
12	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	停止中のねぶた正面	
13	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫			テレビ撮影用? ライトが当たるハネト(シャッターブレ)	
14	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫			テレビ撮影用? ライトが当たるハネト(シャッターブレ)	
15	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫			テレビ撮影用? ライトが当たるハネト(シャッターブレ)	背景にアーケード
16	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫			ハネト(シャッターブレ)	背景にアーケード
17	白黒	写真3	1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫			ハネト(シャッターブレ)	
18	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	縦構図でねぶた正面	
19	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫			テレビ撮影用? ライトが当たるハネト(シャッターブレ)	
20	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫			テレビ撮影用? ライトが当たるハネト(シャッターブレ)	
21	白黒	写真2	1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	渡辺綱の刀と茨木童子、後方に満月	
22	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	渡辺綱の刀	
23	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	停止中のねぶた正面やや右	
24	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	停止中のねぶた正面やや右	
25	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	縦構図でねぶた右半分(渡辺綱)	
26	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	縦構図でねぶた右半分(渡辺綱)	
27	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	停止中のねぶた正面	
28	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	停止中のねぶた正面やや右	
29	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	縦構図でねぶた右半分(渡辺綱)	
30	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	縦構図でねぶた左半分(茨木童子)	
31	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	縦構図でねぶた右半分(渡辺綱)	
32	白黒		1963	8月5日か6日	夜	青森信用金庫	茨木童子 渡辺源氏綱	北川啓三	縦構図でねぶた右半分(渡辺綱)	
33	白黒		1963	8月5日か6日	昼	県庁			行列の先頭の子どもたち	国道
34	白黒	写真5	1963	8月5日か6日	昼	県庁			先導する役員と子どもたち	国道
35	白黒	写真4	1963	8月5日か6日	昼	県庁	曾我物語由来 河津三郎俣野五郎相撲の場	秋田寛四郎	正面右から撮影	国道市役所付近、興産相互銀行前
36	白黒	写真6	1963	8月5日か6日	昼	県庁			囃子方を横やや後から撮影	国道
37	白黒		1963	8月5日か6日	昼	県庁			囃子方を横やや後から撮影	国道
38	白黒	写真7	1963	8月5日か6日	昼	県庁			囃子方を横から撮影	国道
39	白黒		1963	8月5日か6日	昼	県庁			囃子方の笛吹きを前から撮影	国道
40	白黒	写真8	1963	8月5日か6日	昼	県庁			囃子方の笛吹きを前から撮影	国道
41	白黒		1963	8月5日か6日	昼	県庁			囃子方の笛吹きを前から撮影	国道
42	白黒	写真12	1963	8月5日か6日	夕方	東北電力	巖流島の決斗	北川啓三	ねぶた正面	国道、市役所前(右後ろに第一生命)
43	白黒		1963	8月5日か6日	夕方	東北電力	巖流島の決斗	北川啓三	ねぶた正面やや左	
44	白黒		1963	8月5日か6日	夕方	東北電力	巖流島の決斗	北川啓三	ねぶた正面左(佐々木小次郎)、後に自衛隊ねぶた	国道
45	白黒	写真9	1963	8月5日か6日	昼	東北電力	巖流島の決斗	北川啓三	ねぶた正面	国道、市役所前(右後ろに第一生命)
46	白黒		1963	8月5日か6日	夕方	東北電力	巖流島の決斗	北川啓三	ねぶた正面左(佐々木小次郎)、後に自衛隊ねぶた	国道
47	白黒		1963	8月5日か6日	夕方	東北電力	巖流島の決斗	北川啓三	ねぶた正面左(佐々木小次郎)、後に自衛隊ねぶた	国道
48	白黒		1963	8月5日か6日	夕方	東北電力	巖流島の決斗	北川啓三	ねぶた正面左(佐々木小次郎)、後に自衛隊ねぶた	国道
49	白黒		1963	8月5日か6日	夕方	東北電力	巖流島の決斗	北川啓三	ねぶた正面左(佐々木小次郎)	国道、市役所前
50	白黒	写真13	1963	8月5日か6日	夕方	東北電力			ガガシコを持つハネト	
51	白黒	写真16	1963	8月5日か6日	夜	魚河岸	加藤清正	北川啓三	ねぶた左前から撮影	
52	白黒	写真17	1963	8月5日か6日	夜	魚河岸	加藤清正	北川啓三	ねぶた右前から撮影	
53	白黒		1963	8月5日か6日	夜	魚河岸	加藤清正	北川啓三	ねぶた左前から撮影	

番号	種別	掲載番号	年	月日	時刻	団体	ねぶた題名	ねぶた作者	写真の特徴	場所
54	白黒	写真15	1963	8月5日か6日	夜	に組消防	文覚上人荒行の場	秋田覚四郎	後ろに東北電力ねぶた、離れて左前から撮影	国道、市役所前(右後ろに第一生命)
55	白黒		1963	8月5日か6日	夜	に組消防	文覚上人荒行の場	秋田覚四郎	左前から撮影	国道
56	白黒	写真14	1963	8月5日か6日	夜	に組消防	文覚上人荒行の場	秋田覚四郎	左前から撮影	国道
57	白黒	写真18	1965	8月7日		消防第二分団、市役所、小田正工務店			海上運行出発	青森港
58	白黒		1965	8月7日		消防第二分団、市役所			海上運行出発	青森港
59	白黒		1965	8月7日		消防第二分団、市役所			海上運行出発	青森港
60	白黒		1965	8月7日		消防第二分団	橋弁慶		海上運行出発	青森港
61	白黒		1965	8月7日		消防第二分団、市役所、小田正工務店、日立			海上運行出発	青森港
62	白黒	写真19	1965	8月7日		消防第二分団、市役所、小田正工務店、日立			海上運行出発	青森港
63	白黒		1965	8月7日		消防第二分団、市役所			海上運行出発	青森港
64	白黒		1965	8月7日		消防第二分団、市役所、小田正工務店			海上運行出発	青森港
65	白黒		1965	8月7日		消防第二分団、市役所、小田正工務店			海上運行出発	青森港
66	白黒		1965	8月7日		消防第二分団、市役所、小田正工務店			海上運行出発	青森港
67	白黒		1965	8月7日		消防第二分団	橋弁慶		海上運行出発	青森港
68	白黒	写真20	1965	8月7日		消防第二分団、市役所、小田正工務店			海上運行出発	青森港
69	白黒		1965	8月7日		消防第二分団	橋弁慶		海上運行出発	青森港
70	白黒		1965	8月7日		消防第二分団、市役所、小田正工務店			海上運行出発	青森港
71	白黒		1965	8月7日		市役所、小田正工務店			海上運行出発	青森港
72	白黒		1965	8月7日		消防第二分団、市役所、小田正工務店、日立			海上運行出発	青森港
73	白黒	写真22	1965	8月7日		永澤興業	宝蔵院の決斗		海上運行	
74	白黒		1965	8月7日		永澤興業	宝蔵院の決斗		海上運行	
75	白黒		1965	8月7日		消防第二分団	橋弁慶		海上運行出発	青森港
76	白黒	写真21	1965	8月7日		消防第二分団	橋弁慶		海上運行出発、[萩原、1976掲載]	青森港
77	白黒		1965	8月7日		消防第二分団	橋弁慶		海上運行出発	青森港
78	白黒		1965	8月7日		消防第二分団	橋弁慶		海上運行出発	青森港
79	白黒		1965	8月7日		永澤興業	宝蔵院の決斗		海上運行	
80	カラー		1968	8月7日	昼	日本通運	土蜘蛛	佐藤伝蔵	昼の運行を国道で撮影	国道、県庁付近
81	カラー	写真29	1968	8月7日	昼	日本通運	土蜘蛛	佐藤伝蔵	昼の運行を国道で撮影。右後ろにに組のねぶた	国道、県庁付近
82	カラー		1968	8月7日	昼	東北電力	源頼光と坂田公時	山内岩蔵	昼の運行を国道で撮影	国道、県庁付近
83	カラー	写真26	1968	8月7日	昼	東北電力	源頼光と坂田公時	山内岩蔵	昼の運行を国道で撮影	国道、県庁付近
84	カラー	写真28	1968	8月7日	昼	東北電力	源頼光と坂田公時	山内岩蔵	昼の運行を国道で撮影。離れて隊列全体を撮影	国道、県庁付近
85	カラー	写真27	1968	8月7日	昼	東北電力	源頼光と坂田公時	山内岩蔵	昼の運行を国道で撮影。前ねぶたを大きく撮す	国道、県庁付近
86	カラー	写真23	1968	不明	夕方	市役所	川中島	鹿内一生	出発前の様子	
87	カラー		1968	不明	夕方	市役所	川中島	鹿内一生	出発前の様子	
88	カラー	写真24	1968	不明	夜	市役所	川中島	鹿内一生		
89	カラー		1968	不明	夜	市役所	川中島	鹿内一生		
90	カラー		1968	不明	夜	市役所	川中島	鹿内一生		
91	カラー		1968	不明	夜	市役所	川中島	鹿内一生		
92	カラー	写真25	1968	不明	夜	青年会議所	戻橋	石谷進	「観光ねぶた」としてハネを一般開放したねぶた	後に「阿部」という化粧品店の看板
93	カラー		1976	不明	夜	青年会議所	那智の滝	千葉伸二		国道、県庁前歩道橋
94	カラー		1976	不明	夜	青年会議所	那智の滝	千葉伸二		国道、県庁前歩道橋
95	カラー	写真39	1976	不明	夜	市役所	四条畷補正行	一戸意生	上からねぶたの正面を撮影	国道、県庁前歩道橋
96	カラー	写真40	1976	不明	夜	消防第二分団	足柄山の金太郎	山内岩蔵	上からねぶたの正面を撮影	国道、県庁前歩道橋
97	カラー		1976	不明	夜	日立	源頼光酒呑童子を退治	佐藤伝蔵	上からハネを撮影。後にねぶた	国道、県庁前歩道橋
98	カラー		1976	不明	夜	マルハ	剛力 島の為朝	石谷進	上からハネを撮影。後にねぶた	国道、県庁前歩道橋
99	カラー	写真33	1976	不明	夜	マルハ	剛力 島の為朝	石谷進	上からハネを撮影。後にねぶた	国道、県庁前歩道橋
100	カラー		1976	不明	夜	県庁	柳生石舟斎・喝	鹿内一生	上からハネを撮影。後にねぶた	国道、県庁前歩道橋

番号	種別	掲載番号	年	月日	時刻	団体	ねぶた題名	ねぶた作者	写真の特徴	場所
101	カラー	写真32	1976	不明	夜	県庁	柳生石舟斎・喝	鹿内一生	上からハネを撮影。後にねぶた	国道、県庁前歩道橋
102	カラー		1976	不明	夜	県庁	柳生石舟斎・喝	鹿内一生	上からハネを撮影。後にねぶた	国道、県庁前歩道橋
103	カラー	写真30	1976	不明	夜	県庁	柳生石舟斎・喝	鹿内一生	上からハネを撮影。後にねぶた	国道、県庁前歩道橋
104	カラー	写真31	1976	不明	夜	県庁	柳生石舟斎・喝	鹿内一生	上からハネを撮影。後にねぶた	国道、県庁前歩道橋
105	カラー		1976	不明	夜	県庁	柳生石舟斎・喝	鹿内一生	上からハネを撮影。後にねぶた	国道、県庁前歩道橋
106	カラー	写真35	1976	不明	夜	日本通運	閻魔大王と平清盛	佐藤伝蔵	上からハネを撮影。後にねぶた	国道、県庁前歩道橋
107	カラー	写真34	1976	不明	夜	市役所	四条暎楠正行	一戸意生	上からハネを撮影。後にねぶた	国道、県庁前歩道橋
108	カラー		1976	不明	夜	青年会議所	那智の滝	千葉伸二	「囃子賞 無審査」という額が見えるが理由は不明。前年の囃子賞受賞団体	国道、県庁前歩道橋
109	カラー	写真36	1976	不明	夜	青年会議所	那智の滝	千葉伸二	「囃子賞 無審査」という額が見えるが理由は不明。前年の囃子賞受賞団体	国道、県庁前歩道橋
110	カラー	写真37	1976	不明	夜	私たちのねぶた	曾我五郎と御所五郎丸	秋田弘・福地誠郎	ビニールをかけて運行	国道、県庁前歩道橋
111	カラー	写真41	1976	不明	夜	藤本建設	出世太鼓		出世太鼓は1972年開始。1976撮影か?	国道、県庁前歩道橋
112	カラー		1976	不明	夜				ハネのみ	国道、県庁前歩道橋
113	カラー		1976	不明	夜				ハネのみ	国道、県庁前歩道橋
114	カラー		1976	不明	夜				ハネのみ	国道、県庁前歩道橋
115	カラー		1976	不明	夜				ハネのみ	国道、県庁前歩道橋
116	カラー	写真38	1976	不明	夜	マルハ	剛力 島の為朝	石谷進	ハネのみ、マルハの太鼓の曳き手が写っている	国道、県庁前歩道橋
117	白黒		不明	不明	昼				子どもハネの踊り。後にバスと自動車が続く	後に shell のGS
118	白黒		不明	不明	昼				子どもハネの踊りのあとの移動?後にバスと自動車が続く	後に shell のGS
119	白黒		不明	不明	昼				子どもハネの踊り。後にバスと自動車が続く	後に shell のGS
120	白黒		不明	不明	夜				浴衣姿でござにあぐらをかき、ねぶたを見上げる団体客	
121	白黒		不明	不明	夜				浴衣姿でござにあぐらをかき、ねぶたを見上げる団体客	
122	白黒		不明	不明	夜				浴衣姿でござにあぐらをかき、ねぶたを見上げる団体客	
123	白黒		不明	不明	夜				浴衣姿でござにあぐらをかき、ねぶたを見上げる団体客	
124	白黒		不明						駅頭の装飾	青森駅
125	白黒		不明						駅頭の装飾	青森駅

表3 1963年の大型ねぶたと写真の枚数

団体	題名	制作者	賞	写真枚数
陸上自衛隊	津軽為信公大垣城の奮戦	佐藤直市		
青森市役所職員組合	素戔鳴尊の大蛇退治	堀内北民		
青森信用金庫	茨木童子と渡辺源氏綱	北川啓三		32
青森米穀卸小売一同	大江山	佐藤伝蔵		
青森木材青壮年会	三国志より 関羽と張飛	秋田覚四郎		
青湾信用金庫	南祖坊と八乃太郎決戦の場	佐藤伝蔵	海上運行	
荒川青年団	戻橋	鹿内一生	海上運行	
魚河岸	加藤清正	北川啓三	海上運行	3
小田工務店	源三位頼政と猪早太ぬえ退治	小田正一	海上運行	
県庁	曾我物語 河津三郎と俣野五郎	秋田覚四郎		9
消防第二分団	怪猫佐賀の夜桜	千葉作太郎	海上運行	
東北電力青森支店	巖流島の決斗	北川啓三	田村磨賞、海上運行	9
大町消防第三分団 (に組消防)	文覚上人荒行の場	秋田覚四郎		3
日本通運青森支店	曾我兄弟 富士の誉	北川啓三	海上運行	

く、特定のねぶたを選択して重点的に撮影していることがわかる。写真は白黒56枚、カラー1枚、合計57枚あり、4回の訪問のうちでは最多の枚数を残している。

この年の運行は、8月5、6、7日の三日間にわたって行われた。5日と6日は夜の運行である。5日は国道と税務署通りの角に集合し、国道を西進、柳町を右折して北上し、新町通を左折して西進して青森駅で解散した。6日は堤橋から出発して国道を西進、青森駅に入ってから新町を東進した。7日は昼の運行である。青森駅に集合し、森町を東進して堤川に至り、右折して堤橋で解散した（青森ねぶた誌）。また、7日夜には海上運行が行われた。萩原氏の写真は、8月5日もしくは6日に撮影したものである。

では、萩原氏が撮影したねぶたを運行団体別に見てみよう。

まず、最も多く撮影しているのが、青森信用金庫の「茨木童子と渡辺源氏綱」（北川啓三作）であり、32枚の写真がある。うち7枚はねぶたが写っておらず、ハネトを写している。ハネトが着ている浴衣が青森信用金庫のものであることからここに含めた。

いずれも夜の運行の写真であり、ねぶたの曳き手が休憩していることから、停止中に撮影したものである（写真1）。正面からねぶた全体を写した、同じような写真ばかりであり、ねぶたの後や横を写した写真はない。この年の唯一のカラー写真もこれと同じ構図である。ねぶたの部分に注目した写真としては、渡辺綱の持つ刀を写したと思われる写真がある（写真2）。

青森信用金庫のハネトを写した写真は7枚あるが、シャッターのブレが目立つ（写真3）。これはストロボを使用せずに撮影したためであると思われる。

一連の写真の撮影場所は不明である。

県庁「曾我物語 河津三郎と俣野五郎」（秋田覚四郎作）は日中の写真が9枚ある。このうちねぶたを写したのは1枚だけである（写真4）。団体の先頭が2枚（写真5）、囃子方が6枚ある。囃子



写真1



写真2



写真3

方は、集団を撮影する（写真6）だけでなく、太鼓を叩く人（写真7）と笛を吹く人（写真8）をアップで撮影している。ねぶたを写した写真4の背景に写っている興産相互銀行は、現在の北日本銀行であるから、国道の市役所前を東進する様子である。曳き手の影が手前に長く伸びていることから、西日を後から浴びて東に進んでいることがわかる。一連の写真では、隊列の後に車が走っており、まだ交通規制がされていない。これはおそらく、8月5日もしくは6日の夕方に、県庁を出発して集合場所（5日は国道と税務署通りの角、6日は堤橋）に向かうところを撮影したのであろう。



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9



写真10



写真11



写真12



写真13

東北電力「巖流島の決斗」(北川啓三作)は9枚あり、ねぶたを写した写真は8枚である。このうち1枚(写真9)は昼間の撮影であるが、それ以外の7枚は夕方の撮影で、運行前の待機中の様子と思われる。真正面から撮影したもの(写真10)と、左前方から撮影したもの(写真11)がある。このねぶたは宮本武蔵と佐々木小次郎の2人ねぶたで、2人の向きがほぼ90度ずれているという構図が特徴である。左前方からの写真11は、太刀を振る佐々木小次郎に焦点を当てて正面から撮影したものである。左後方には陸上自衛隊のねぶたが小さく写っているが、この自衛隊のねぶたをアップで写した写真は残していない。撮影場所は、右後ろに第一生命の看板が写っていることから(写真12)、5日もしくは6日に、国道の市役所東側に停止している様子と思われる。ちなみにこのねぶたは、最優秀賞である田村磨賞を受賞している。このほか、ハネトの持つガガシコを写した写真が1枚ある(写真13)。

に組「文覚上人荒行の場」(秋田覚四郎作)は3枚ある。いずれも夜の写真である(写真14)。写真15には、後ろに東北電力のねぶたと第一生命の看板が写っている。このことから、国道を西進していることがわかる。

魚河岸「加藤清正」(北川啓三作)は3枚ある。いずれも夜の写真である。正面左からの撮影が2枚(写真16)、右からが1枚(写真17)ある。ねぶたの造形としては、加藤清正が虎の舌をつかみ、げんこつで殴りつけるという斬新な構図で、評価の高いねぶたであった。

撮影した5台のねぶたを制作者別に見ると、北川啓三が3台、秋田覚四郎が2台である。秋田覚四郎の2台とは県庁とに組であるが、県庁の写真は囃子方を撮影したものが多い。こうしたことから、北川啓三のねぶたを重点的に撮影したことが推測される。ちなみに、前年に最優秀賞である田村磨賞が制定され、第1回の受賞者が北川啓三であった。この年も、萩原の撮影時には審査結果は発表されていなかったと思われるが、結果的に北川啓三の東北電力「巖流島の決斗」が田村磨賞を受賞する。被写体の選別は、萩原氏なりの評価の現れであろうか。

この年の写真の特徴は、ねぶただけではなく、ハネトや囃子方にも注目して撮影している。これは、それ以後の時期の写真には見られないことである。おそらく青森ねぶた祭の撮影は初めてであり、目に付くものを幅広く撮影しようとしたのではないだろうか。



写真14



写真15



写真16



写真17



## 2-2. 1965年の写真

1965年は14台のねぶたが運行した(表4)。この年の写真は23枚あり、すべて白黒写真である。そしてすべてが、8月7日に海上運行に出発する同じ場面を撮影したものである。

表4 1965年の大型ねぶた

団体	題名	制作者	賞
青森県印刷工業組合	義経千本桜伏見稲荷の場	千葉作太郎	(市長賞)
自衛隊青森駐屯部隊	羅生門	佐藤直市	(市長賞)
青森市役所(職員組合)	九紋龍と花和尚	堀内北民	(市長賞)
青森木材青壮年会	本能寺 織田信長の奮戦	秋田覚四郎	(市長賞)
小田正工務店	清姫と父庄司日高川の場	小田正一	海上運行(市長賞)
県庁	勸進帳	北川啓三	(市長賞)
国鉄	八ノ太郎と南祖坊	川村勝四郎	(市長賞)
消防第二分団	橋弁慶	千葉作太郎	(市長賞)
東青農協議会	土蜘蛛	山内岩蔵	(市長賞)
東北電力青森支店	網館	北川啓三	海上運行(市長賞)
永澤興業	宮本武蔵と阿巖法師宝蔵院の決斗	細川長三郎	海上運行(市長賞)
消防第三分団に組	三国志 呂布関羽奮闘の場	鹿内一生	田村磨賞(市長賞)
日本通運青森支店	鳴神と岩永姫	佐藤伝蔵	海上運行(市長賞)
日立連合・駒込町会	羅生門 渡辺綱と茨木童子	佐藤伝蔵	海上運行(市長賞)

海上運行とは、その年に出たねぶたの中から優れたものを選び、はしけに乗せて、陸奥湾を航海するものである。同時に花火大会が開催されることから人気を集めている。海上運行に出るねぶたの台数は、使用可能なはしけの台数にも左右されるが、5台程度である。

写真18は、夕方ねぶたをはしけに載せ終わり、出港を待っているところである。ねぶたは奥から順に、小田正工務店(清姫と父庄司日高川の場)、青森市役所(九紋龍と花和尚)、消防第二分団(橋弁慶)が写っている。写真19では、小田正工務店の奥に、日立(羅生門 渡辺綱と茨木童子)のねぶたがNo.101と書かれたはしけに載っているのが見える。写真20は、消防第二分団のねぶたにだけ灯が点っている。その右側に、永澤興業のねぶた(宝蔵院の決斗)の一部が写っている。写真21は、消防第二分団のねぶたに灯が点ったところ。写真22は、灯が点り岸を離れた永澤興業のねぶた。右後ろに小さく見えるのが消防第二分団のねぶたである。

一連の写真からわかることは、この年の海上運行に出たのは5団体であり、出港の順番は、日立、小田正工務店、青森市役所、消防第二分団、永澤興業である。ちなみにこの年は、消防第三分団に組が、最優秀賞である田村磨賞を受賞しているが、海上運行には参加しなかったことがこの写真から明らかになる。

この年の写真は、海上運行の出港シーンだけである。これは、2年前の1963年に撮影できなかった海上運行を撮影することが目的であり、わざわざ7日夜に青森港を訪れたと思われる。しかも出港場所は青森港の東部で、観光客が行くことはまずない。7日昼の運行の写真もないことから、夕方の出港シーンを撮影するという明確な目的を持って青森を訪れたのであろう。



写真 18



写真 19



写真 20



写真 22



写真 21

### 2-3. 1968年の写真

1968年は、8月3日から6日まで夜の運行、7日の昼の運行という運行スタイルが確定した年である。ねぶたは15台が運行した(表5)。写真は、カラー写真のみ13枚が存在し、15台のうち4台が写っている。すなわち、他のねぶたを撮影したかどうか不明だが、全部のねぶたの写真を網羅的に保存したわけではない。ねぶたの選択理由は不明である。

市役所(川中島)が6枚あり、夕方の出発前(写真23)が2枚と夜の運行(写真24)が4枚である。夜の写真はもう1枚あり、青年会議所のねぶた(辰橋)である(写真25)。これは一般観光客を早くからハネトに受け入れたねぶたであり、「観光ねぶた」という提灯がついているのが注目される。7日に撮影した昼のねぶたは、国道で撮影した東北電力(源頼光と坂田公時)が4枚ある。出発前の様子をハネトを入れて近くから撮影し(写真26)、前ねぶたを入れて少し離れて写し(写真27)、さらには隊列全体を撮影している(写真28)。さらに国道を歩く日本通運(土蜘蛛)をすぐそばで写した写真が2枚ある(写真29)。

表5 1968年の大型ねぶたと写真の枚数

団体	作品名	制作者	賞	写真枚数
青森県板金工業組合	曾我の五郎と御所の五郎丸	石谷進		
青森市役所職員組合	川中島	鹿内一生		6
青森青年会議所	辰橋	石谷進		1
青森ナショナル店会	本能寺 森蘭丸と安田作兵衛	千葉伸二		
青森木材青壮年会	牛若丸と天狗	石谷進		
魚河岸	連獅子	石谷進	海上運行	
国鉄	鎮西八郎為朝鷲退治	川村勝四郎	奨励賞	
消防第二分団	九紋龍と陳達	秋田覚四郎		
青森青年経営協議会	項羽の馬なげ	鹿内一生	海上運行	
大福町	高砂	織田竹容	海上運行	
東青信用組合	草薙の剣	佐藤伝蔵	田村磨賞	
東北電力青森支店	源頼光と坂田公時	山内岩蔵	製作者賞	4
消防第三分団(に組)	坂上田村麻呂蝦夷征伐	鹿内一生	奨励賞	
日本通運青森支店	土蜘蛛	佐藤伝蔵	海上運行	2
日立連合	水滸伝 九紋龍と魯智深	佐藤伝蔵		



写真23



写真24



写真 25



写真 26



写真 27



写真 28



写真 29

4台の制作者は、鹿内一生、佐藤伝蔵、山内岩蔵、石谷進の4人が1台ずつになる。当時のねぶた師の力量からすると妥当な選択であろう。ただ、田村磨賞を受賞した東青信用組合「草薙の剣」（佐藤伝蔵作）がない。奨励賞の2作品（に組、国鉄）もない。に組のねぶたは、写真29の右後ろに小さく写っているから、撮影できない状態ではなかったはずである。受賞ねぶたの写真を撮影していないか、残していない点は注目される。

## 2-4. 1976年の写真

1976年は14台のねぶたが運行した（表6）。このうち8台について、18枚のカラー写真を残している。この年の大型ねぶたは14台であり、そのうち8台の写真を残すとはいうものの、この年の写真の主演は、ねぶたではなくハネトである。しかも、全部の写真が同じ場所で夜に撮影したものである。

撮影場所は、国道の県庁前にあった歩道橋である。西側から接近してくるねぶたを上から俯瞰して撮影できるため、ねぶたの撮影ポイントとして知られていた。特に、ハネトの大群を写真に収めるには適した場所であった。

なかでも、県庁（喝）の写真は大勢のハネトが目立つ。写真30と31は、のちに写真集『日本の祭り』の表紙と裏表紙を飾り、また写真32も本文中に収録している。このように、ねぶたの前にハネトの大群が跳ねるという構図で、マルハ（写真33）、市役所（写真34）、日本通運（写真35）、青年会議所（写真36）、私たちのねぶた（写真37）を撮影している。さらにはハネトだけを写してねぶたが（ほとんど）写っていない写真が4枚ある（写真38など）。ねぶただけを写した市役所（写真39）、消防第二分団（写真40）などは例外に属する。また、隊列を先導する出世太鼓の写真もある（写真41）。

表6 1976年の大型ねぶたと写真の枚数

団 体	作 品 名	制 作 者	賞	写真枚数
自衛隊ねぶた運行協賛会	木下藤吉郎初陣の功名	佐藤伝蔵		
青森市職員互助会	四条畷楠木正行	一戸泰英		2
青森青年会議所	那智の滝	千葉伸二		4
青森マルハねぶた会	剛力 島の為朝	石谷進		2
青森木材青壮年会	九紋龍と魯智深	石谷進	知事賞	
日本電信電話公社	大江山（源頼光と酒呑童子）	千葉伸二		
亀屋みなみ流通グループ	勸進帳	千葉伸二	田村磨賞	
青森県庁ねぶた実行委員会	柳生石舟斎・喝	鹿内一生		6
盛岡鉄道管理局	素戔鳴尊八岐の大蛇退治	川村勝四郎		
消防第二分団	足柄山の金太郎	山内岩蔵		1
に組消防若者・東芝グループ	平将門	我生会	囃子賞	
日本通運青森支店	閻魔大王と平清盛	佐藤伝蔵		1
日立連合	源頼光酒呑童子を退治	佐藤伝蔵		1
私たちのねぶた自主製作実行委員会	曾我五郎と御所五郎丸	秋田弘・福地誠郎		1



写真 30



写真 31



写真 32



写真 33



写真 34



写真 35



写真 36



写真 37



写真 38



写真 39



写真 40



写真 41

## 2-5. まとめ

以上、萩原氏のねぶた写真を簡単に紹介した。特徴として、

- ねぶたのアップがない
- 受賞ねぶたが少ない
- 団体、制作者に注目していない
- 団体名や広告などが目立たないねぶたを選択している
- 合同運行以外の写真がない

といった点が指摘しうる。合同運行以外には、海上運行の出発風景こそ撮影しているが、制作中の様子や、小屋出しなど、準備に属する部分の写真は撮影していない。

また、ねぶたを出している全団体を網羅的に撮影するようなことはなく、受賞作にもこだわらず、偶然目に付いたねぶたを撮影しているような印象を受ける。あえて言えば、観光客の視点でねぶたを撮影しているという印象がしなくもない。

## 3. 書籍への使用

最後に、萩原氏が自著にどの写真を掲載しているか見てみよう。判明分は次の通りである(表7)。

表7 書籍に使用した写真

発行年	書名	出版社	掲載法	撮影年	ねぶた作品名	制作者
1973	お祭り12か月の旅— 祇園祭から尻つみ祭まで	サンケイ新聞社 出版局	白黒	1965	橋弁慶	千葉作太郎
1976	日本の祭り撮影ガイド	朝日ソノラマ	白黒、反対頁に弘 前ねぶた	1965	橋弁慶	千葉作太郎
1979	日本の祭り— 四季のうつろい	サンケイ新聞社	表紙、カラー2頁 見開き	1976	柳生石舟斎・ 喝	鹿内一生
1985	日本宗教民俗図典3 四季の行事	法蔵館	白黒	1976	柳生石舟斎・ 喝	鹿内一生
1995	日本の祭ポケット図鑑	オリジン社	カラー2頁見開き に写真2点	1976	剛力 鳥の為朝	石谷進

まず、1973年の『お祭り12か月の旅』と、1976年の『日本の祭り撮影ガイド』では、1965年の海上運行出発時に撮影した「橋弁慶」(写真21)を使っている。特に『日本の祭り撮影ガイド』では、「Ⅶ 神を送る」の「ネブリ流し」という項目で、「青森ねぶたのほんとうの起源がネブリ流しであることはいうまでもない」という説明とともに用いている。

1979年の『日本の祭り—四季のうつろい—』では、先に述べたように、1976年の「喝」を前に跳ねるハネトの大群のカラー写真を使っている。しかも本文中に写真32を見開きで入れるだけでなく、表紙には写真30、裏表紙に写真31をトリミングして、ハネトだけを載せている。ここではハネトの大群を見せているのであるが、しかし写真解説では、語源としてネブリナガシを説明するにとどめている。1985年の『日本宗教民俗図典3 四季の行事』も、同じ写真を白黒で使っている。

1995年の『日本の祭りポケット図鑑』では、1976年の「鳥の為朝」の回りでハネトが跳ねるカラー写真(写真33)を掲載している。さらには出世太鼓も小さく載せている(写真41)。ここではネブ



---

リナガシを説明するだけでなく、ハネトについても解説している。

なお、1976年のねぶたのうち「喝」と「島の為朝」が選ばれたのは、企業名が入った看板などを掲示していないため、見栄えがするという判断であったものと思われる。

こうしてみると、萩原氏の写真選択の根拠となった考え方は、まずねぶたの語源 = ネブリナガシ説から海上運行に注目し、次に大量のハネトという、現代の青森ねぶた祭に特有の現象に注目するというものであった。燈籠自体の芸術性や、作品としてのねぶた、制作者の個性に注目するという視点はなかった。「民俗行事」を撮影する民俗写真家の視点をよく表しているものと考えられる。

---

#### 文献

宮田登・小松和彦編 2016『青森ねぶた誌 増補版』青森市（初版は2000年発行）

（江戸川大学社会学部，国立歴史民俗博物館共同研究員）

（2017年1月20日受付，2017年3月29日審査終了）